

## 2014年 ISPA カナダコスタルコース体験記

YBM52期 山崎 洋

念願のカナダコスタルコースを受講してきました。とっても楽しかった思い出を残しておきたく、そしてシェアしたく、この体験記を書かせていただきました。記憶があやふやで事実と多少違っていたり、思い違いがあるかもしれませんが、今後コスタルコースの参加を検討される方や、準備をされる方の参考になれば幸いです。

### 8/9 バンクーバー集合

期待とちょっぴり不安を感じながらバンクーバー空港に到着。手荷物トラブルに見舞われ、後の便で到着したグループと空港のタクシー乗り場で自然に合流、前泊するホテルにタクシーで向かいます。今回のメンバーは全部で6名、岡田先生、ISPA パワーボートのインストラクター坂本さん、ヨット歴数十年の大ベテランで私の親分である佐藤さん、レースで活躍している Tictac オーナーの庄野さん、ダイビングもこなす海が大好き寺内さん、そしてヨット歴まだ2年の私です。

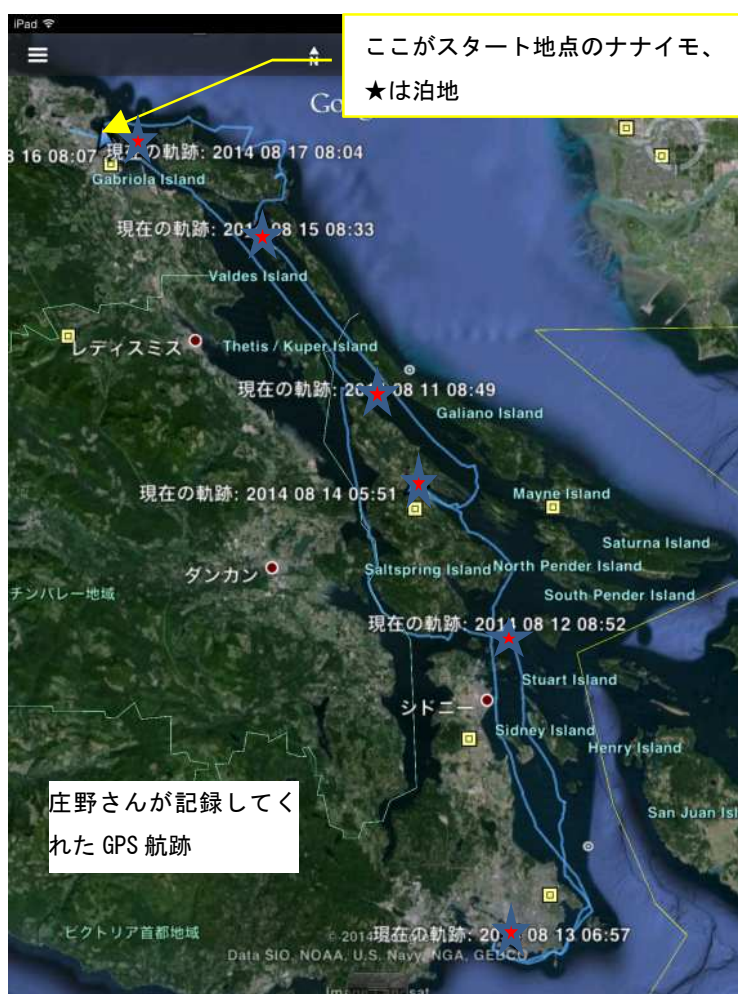
時差のせいで成田を18時に出たのにバンクーバーはまだお昼過ぎ、ホテルの向こう岸、グランビルアイランドの市場に食材買出しの下見に出かけました。例年になく暖かく、短パンにTシャツでちょうどいい感じです。夕食はBRIDGEというレストランのテラス席で夕陽を見ながらオイスター、ロブスター、ムール貝、美味しくて気分最高！



新鮮な魚貝類



大好物のロブスター！



## 8/10 ナナイモへ移動、ヨットの受取と食材買出し

今回はジョージア海峡を挟んでバンクーバーとは反対側のナナイモからヨットをチャーターしたので、まずはナナイモへ。ジョージア海峡はフェリーで横断します。お迎えの車が到着、なんとストレッチリムジン、気分が盛り上がります。フェリーが出る Horseshoe Bay までしばしのセブ気分、フェリー乗り場に到着すると



周りの視線を感じます。2万トン級の大型フェリーで1時間40分でナナイモに到着。早速今回ヨットをチャーターした Nanaimo Yacht Charters から車で迎えに来てくれました。残念ながら全員は乗りきれなかったため荷物だけ運んでもらって徒歩で移動、10分もかかりませんでした。ここで船の装備や注意点、返却時の手順等の説明を受けます。今回チャーターしたヨットは Beneteau393、船名は Oasis、2002年製で今年 Fleet に加わった新顔でした。



荷物を積み込みこんでからガンジスまでの4日分の食材の買い出しに近所のショッピングセンターへ、親切にもマリーナでメルセデス M-class を貸してくれました。国際免許を持って来ていた坂本さんの運転で向かいます。事前に佐藤さんが準備してくれていたリストに沿って次々と食材をトロリーへ放り込みリストを消しこみます。栄養バランスを考え新鮮なフルーツも買い込みました。お買い上げ額は食材やボトルウォーター等が512ドル、お酒類はビール66缶、ワインマグナム8本で290ドルと豪快でした。前後2つ合計450Lの清水タンクを満タンにして準備完了。夕食はマリーナのそばのパブで済ませ、船に戻ります。日が長く、着陸する水上飛行機が頻繁に上空をかすめます。ようやく暗くなると隣に係留しているヨットに Bar がオープン、かなり酔いの回った女性オーナーからドリンクのお誘いです。何だかんだ棧橋で盛り上がったのち、ようやくオーナーが眠りに落ちてくれてやっと解放されました。明日はいよいよ出発なので早々に床に就きます。

Welcome board !

Beneteau 393 - Oasis	
	
Year Built:	2002
LOA:	39'4"
Cabins:	2
Base:	Nanaimo
Vessel Category:	30 to 39ft



トロリー2台分の買い出し



オーナーマダム、かなり出来上がっています

**8/11 Day1 ⇒Wallace Island 21M【庄野、坂本、山崎、寺内】**（以降【 】内は左から艇長, ナビ, 食当, 食当サブ）

天候は晴れ、早起きをしてシャワーを済ませます。というのも Day3 までシャワーが無い。シャワーを済ませ食事当番の私はサブの寺内さんと一緒にオムレツ、ベーコン、トーストを用意しました。朝食を済ませていよいよ出発です。艇長は庄野さん、ナビは坂本さん、9時過ぎ予定通り Nanaimo を出発、テンダーボートを引っ張りながら機走、そして帆走で最初の難所ドットナローを目指します。担当ですがナビ当番はナビゲーションに専念、ヘルムは艇長から順番に1時間で交代し、最後のドッキングは艇長が担当というシフトです。食事当番にはサブもつき2人体制です。



ドットナロー通過中、潮流がまだ早い、ナビの坂本さん



舵を取られて緊張気味の佐藤さん



親分のような貫禄の寺内さん



常に冷静に操船する庄野さん

ドットナローに1時間ちょっとで到着、スラックタイム前でもけっこう船が行き来しており、このまま突入することにしました。潮流で舵を取られヘルムを取る佐藤さんの表情が陰しくなります。ナローを通過して私にヘルムの順番が回ってくるとブロードリーチでセーリング。まだ1日目、地理を知らないエリアでチャートと景色を照らし合わせても、手前の島と奥の陸地が重なっていたり、目標ブイが小さくてなかなか見つかりません。ヘルムを交代してオイルサーディンのバケットサンドを準備、走りながら昼食にします。そうしているうちに本日の泊地 Wallace Island に近づいて来ました。

ここは泊地候補が2か所あり、まず第1候補 Princess Bay を下見、14時過ぎだというのにすでに結構混み合っています。第2候補の Conover Cove に移動してみるとかなり浅いので、Princess Bay に引き返しポイントを確認しました。まずはバウのアンカーを私が落とし、寺内さんと坂本さんがテンダーで陸にあるリングに向かいスターンロープを舫って完了。東洋人の慣れない作業を隣のヨットが見守っていました。今日は暑くて作業が終わると汗だく、クールダウンしたくて坂本さん、寺内さんと一緒に海にドボン！泳いだ後はスターンデッキの清水シャワーでサッパリ。



ガルフアイランドで泳いでみたかった！



おー、鍋が焦げ付く！



Princess Bay



くつろいでま〜す！

食事当番の私は食当サブの寺内さんに手伝ってもらいながら、白ワインをふんだんに使ってカナダ産サーモンのアクアパッツアを作りました。私はワイフがロンドンに住んでいるので、普段は日本で一人暮らし、日頃自分で料理をしているので食事当番には多少自信がありましたが、6人分も準備するには寺内さんのサポートが欠かせませんでした。おまけに狭いギャレー、水は節約、ヨットでの調理と後片付けにはそれなりのノウハウが必要です。外での食事が終わってもまだあたりは明るく、コックピットでフルーツのデザートとワインで寛いでいると若い兄ちゃん1名、姉ちゃん2名、都合3人がテンドーで近づいて来ました。どうやらビールが余っていてワインと替えて欲しいとのこと、庄野さんが気前よく白ワインを提供してしまいました。今夜はとても暑かったのでキャビンは寝苦しそう、寝袋を持って来てコックピットで寝ました。



やっぱ白でしょ！



兄ちゃん、羨ましいね！

## 8/12 Day2 ⇒Portland Island 24M【寺内、庄野、佐藤、坂本】

今朝は少し曇っています、昨日もそうでしたが自然と起床時間は6時が定着しつつあります。食事当番の佐藤さんが昨晚からご飯を炊いてくれていて、今朝は和食です。昼食のお稲荷さんもすでに準備OK。9時前、ほぼ定刻に出発、ポर्टランドアイランドを目指します。沖に出たところでホールディングタンクの排出をします。昨日よりチャートと地形を照らすのに慣れてきた感じ、灯台とは呼べないような小さな白いマークも見つけられるようになってきました。



これじゃ小っちゃくてなかなか見つからないよ！



メイン全開！

狭い入り江を抜けたあたりでヘルムの順番が回ってきてブロードリーチでの帆走に切り替えます。お稲荷さんを食べながら航海を続け、本日2回目のヘルムを担当していると、ポर्टランドアイランドが見えてきたので艇長にヘルムを引き継ぎました。



リングに舫いを取ってきました



何故か気になる RAVEN 号

昨日に続いて今日もアンカーを打ってスターンは陸のリングに舫いを取ります。昨日とは担当を入替え、今日は佐藤さんとテンダーでRingに向かいます。陸に上陸して岩を登って舫いをRingに通してきました。昨日より早く出来た感じ、でもだいぶ陸地に近い感じなのでロープを継ぎ足して再調整。お隣りにはなかなかいい感じの英国風ヨット RAVEN 号が停泊しています。

岡田先生の案内で島の反対側の Royal Cove まで探検に行くことになり全員でテンダーで上陸。メープルの林や湿地帯を抜けていくと Royal Cove の視界が開けてきました。持ってきたビールを飲みながら休んでいると、寺内さんが岩場に手のひらサイズの大きなカニを発見、手掴みで捕獲してしまいました。せっかくなので今夜のおかずにと、ビールを入れてきた小さなバッグにカニを収めて船に戻りました。今夜の夕食のメ



寺内さんが捕ってくれたカニに噛まれた！



夕食はエビチリ、ジャーマンポテト、さっきのカニ！

インはエビチリ、それにジャーマンポテトとブルスケッタ、佐藤さんは1日を通して和洋中を楽しませてくれました。もちろん先ほどのカニはボイルしてしっかり完食しました。食事が終わりキャビンに入ると明日ナビを担当する寺内さんがテーブルにチャートを広げて準備に没頭中、明日の艇長の私とコースの確認をしました。

### 8/13 Day3 ⇒Victoria 26M【山崎、寺内、庄野、佐藤】

今朝は出航時間は7時、曇りでひんやりしており、みな少し厚着をしています。艇長は私、ナビは寺内さんです。まずはスターンの舳いを解いてアンカーを上げ始めると船はゆっくりと前進し始めました。寺内さんの指示に沿って針路を取り、昨日確認した通りポート側にシドニー島、スタボー側にジェームス島を見ながら南下し、ヘルムを引き継ぎます。

シドニー島を抜けると視界が広がり潮に乗ってクロスホールドでの帆走モードへ。「ブイが見えてきた！その手前は浅瀬があるぞ！」「じゃあブイをかわすまでタッキングは見送りか？」コース取りに意見が飛び交います。浅瀬を確実にかわし、その後も帆走を続け、ベイニーチャンネルという海峡にタックして一気に突入しました。この先は潮流の影響が大きく、ケルプという海藻も多いので機走モードに切替え。バウの見張りの指示でポートヘスタボーへと舵を切りながら進んでゆき、エンタープライズチャンネルを抜けて行きます。このあたりでヘルムの順番が私に戻ってきました。海峡を抜けると岸边にはいろいろな色の立派な邸宅がいくつも立ち並んでいます。さすが Victoria、これまで抜けてきた岸边の邸宅より高そうな物件に見えました。



こんな邸宅に住んでみたい



この先黄色いブイが続いています

Victoria Harbour に入って行くと、「セールを降ろせ、黄ブイをポート側に見てブイの近くを通れ」との標識、黄色のブイの向こうは水上飛行機の滑走路です。さらに奥に入り込んでいくと有名な Empress Hotel が見えてきました。今日の泊地はホテルではなくホテル前のマリーナの棧橋です。マリン VHF チャンネル 73 でドッキングの指示を仰いだのですが、返答がありません。棧橋は空いていたので明朝出やすいよう後進でドッキング、綺麗に決まったところにマリーナのお姉さんがやってきました。「Call VHF next time!」「I tried Ch73!」「No, Ch66A、同じ間違えする人結構いるのよね、何故かしら?」。ガイドブックが古かったからです。マリーナの事務所でお金を払い、チケットをもらって船に貼っておきます。



ここは定番の撮影ポイント



チケットを掲示しておきます

マリーナに入ると Wi-Fi がつながり Skype でワイフに無事を報告しました。陸電を繋げ、水を補給します。記念撮影をしてビールで乾杯をして昼食、今日の食事当番は庄野さん。メニューはおそうめんだったのですが、ちょっと涼しかったので温かいまま湯気を立てていただきました。その後は久しぶりにシャワーです。シャワーはコイン式、1カナダドルコインが必要です。マリーナの事務所やホットドックの売店のお兄さんが親切に両替してくれるのですが、1回分しか手持ちがないので、出来たら事前に両替しておくべきでした。

夕食までの自由時間、ナビの大役から解放された寺内さんは表情がゆるみ、寝入ってしまいました。明日ナビの私は市内観光はお預け、パッセージプランをチャートに書き込み、ルートを頭に焼き付けます。夕食は市内のシーフード&ステーキレストランへ、ロブスターテイルのステーキ 21.5 ドルはお値打ち、6名で 350 ドルでした。



シャワーは清潔、コイン式



食べたいものを少しずつたくさん注文、  
水曜日はワイン全ボトル 10 ドル OFF



日が長い！



いい名前ですこと！

ライトアップされた Victoria の街は美しく、私は食後に Empress Hotel 内を探検して来ました。私は実は 31 年前の大学卒業旅行で Victoria に来たことがあります。当時の私にこのホテルは憧れでしたが敷居が高くとても立ち入ることは出来ませんでした。現在アフタヌーンティーは 60 ドル、ジーンズ短パンお断りでした。明日は 6 時前に出発予定、みな早く床に就きます。



ライトアップにも風格が



折角なので中を見学、格調あるラウンジ

#### 8/14 Day4 ⇒Ganges Harbour 40M【佐藤、山崎、坂本、庄野】



355T のラインが残ってます

まだ暗いうちに起きると濃い霧が立ち込めています、空気もひんやりしています。今日の艇長は佐藤さん、ナビは私、コースは約 40 マイルと長丁場なので 5:45 に出発しました。水上飛行機の滑走路に沿った黄色いブイをひとつずつ丁寧に確認し



まだ暗い霧と小雨の中を出発

ながらゆっくりと Victoria Harbour を出て行きます。沖に出るとしばらくは昨日の航路を遡るコース。パッセージプランでは昨日通過した海峡は避け、大きく南回りする計画でしたが、岡田先生から昨日通った海峡を抜けるように指示を受け、早速海図にプロトラクターを当てて偏差を換算して佐藤さんに針路をマグネ



ティックで指示します。潮流がアゲンストの Haro 海峡を避け、岸沿いに Cordova Channel を抜けるよう岡田先生から指示され、昨晚チャートに書き込んだ Haro 海峡を北上する当初のルートも却下されました。新たなコースを描いてプロトラクターで針路と距離を確認し、ヘルムを交代した庄野さんにコースを指示します。目標物をひとつずつ確認しながら北上、ますます霧が濃くなり、視界は 10m ほどでしょうか、今日だけはナビで確認しながら機走で慎重に進みます。すると前方から警笛が聞こえ、突然灰色の漁船が目前に迫ってきました。先方はレーダーでこちらが見えていたのだと思います。Oasis 号にも実はレーダーがついていたのですが、その後坂本さんがスイッチを入れるまでレーダーは機能していませんでした。霧の中機走で北上を進め、針路を 338M(355T)に維持して島あい抜けて行くと、ようやく霧が晴れてきました。



Watch お疲れ様、後ろの方はまだ霧が残っています

あー、来ないで、来ないで！

昨日出発したポートランドアイランドの西側を通過したところ、今度は Police Boat がスタボ側から近づいて来ました。一旦通り過ぎたかのように見えたが、なんとこちらに寄せてきます。エー、マジ、臨検？警官が船越に大声で質問をしてくる。「オーナーは誰だ？」一応ロンドン駐在経験のある私がここは一肌脱いで答えます、「この船はチャーターした船です」、「どこから来た、何日チャーターしている？」、「日本から来て、ナナイモで借りました、1 週間の予定で、今日は 4 日目、Victoria から Ganges に向かってるところです」、「君たちヨットの経験は？」、「そこにいるジェントルマンは日本で 1 番のセーラーで、僕らはその弟子です」、「そうか、ところで船の装備品は備わっているかい？」、「もちろんですとも！」、「わかった、気をつけて！」。こんな感じのやり取りを済ませて Police 船は去ってゆきました。

ビーバーポイントが目標になるあたりまで来るとすっかり晴れあがりどんどん温かくなってきて皆だんだん薄着に。Captain Passage に入りとやっとオリジナルのパスセージプランのルートに戻りました。天気



洗濯物を干していて生活感があります



カナダ名物サーモンバーガー

も晴れてきてブロードリーチでの帆走に切り替えます。岸边には棧橋の付いた邸宅が増えてきてリゾート地 Ganges に到着しました。ここではマリーナに係留するのでまたマリン VHF で連絡を取ってみます。古いガイドブックには Ch68 と書いてありましたが、きっとまた Ch66A だろうと連絡してみると案の定お姉さんの声で応答あり。「Ganges Marina、こちらは Oasis、39 フィートのセイルボート、係留したいのですが、どうぞ」、すると後から入ってきて交信中の Black Ten というパワーボートに待機せよと話している様子。「Oasis 号です、マリーナのすぐそばにいます、見えていますか？」と声をかけると棧橋でお姉さんが手を振ってくれて、「We are ready to catch your line!」と応じてくれました。艇長の佐藤さんが慎重にマリーナ内に進入、指示された棧橋の一番奥にポート付けでゆっくりとドッキングしたのは 14:10 でした。入港手続きを済ませ、食材の補給、特に明日のステーキの肉を仕入れに出かけ、対面カウンターで一番上等のフィレ肉を買いました。ビールを 45 缶、マグナムワイン 2 本も補充しました。佐藤さんが明日のナビの準備を始めたので私も 6 日目のナビの準備に取り掛かりました。夕食は近くのパブで、私はサーモンバーガーをいただきました。



かわいい小さなワンコが乗っていた船は 64 フィートもある Dancing Girl 号

### 8/15 Day5 ⇒Pirates Cove 24M【坂本、佐藤、寺内、山崎】

今日は出発が 9 時、6 時起床でまずはシャワーへ。寺内さんと朝食の準備をし、予定通り出発。湾奥に向けて南東の風が吹いており坂本さんが早々にセーリングモードに入りクロスホールドで攻めます、良いぞ良いぞ！ Ganges Harbor を出たあたりで私にヘルムの順番が来てラッキー、徐々に針路を東に向けてアビームに、さらに北上するためブロードリーチに展開してゆきます。私のヘルムシフトはずっとセーリングでした。



水上飛行機とすれ違い



このままずっとセーリングで行けると良いな

そのうち風が弱まりセーリングはあきらめ機走で目的地に。途中ナビゲーションの練習で何度も FIX を取ってみました。Pirates Cove の入り口はポートデイビーコンの先までリーフが伸びており、ポートデイビーコンを過ぎてトランジットマークを完全に超えるまで回り込んで入港する必要があります。



カミングアバウトを繰り返す坂本さん！



岡田先生の操船、風格があります！



テンダーの操船にもだいぶ慣れてきた感じ



係留が完了すればプシュ、お酒解禁！

今回も Ring にスターンの舳れを取りますが、3 回目ともなると作業も慣れてきてさっさと完了、早速乾杯のプシュ！まだまだ明るいのでテンダーで島へ上陸、海賊の宝箱を見つけたり、これまで我々の針路を阻んできた曲者のケルプをテンダーから捕獲したり。食卓サブの私は岡田先生のレシピで捕獲してきたケルプを醤油と砂糖で調理してみました。佐藤さん、庄野さん、坂本さんは釣りを始めました。



海賊の宝箱！



ケルプ捕獲！



このあとリリースしてあげたカレイ



思いのほか美味しかったケルプ、地元の人は食べない？

今夜のメインはステーキですが6人分を一度には焼けないので、トランサムについていたBBQコンロに目を付け、寺内さんがGalleyでミディアムを担当、私はBBQコンロでレアを担当しました。4cm位厚みのあるフィレ肉は程よいレアに仕上がりにこの上もない美味しさで大満足でした。



風下の船に匂いだけおすそ分け



いい感じのレアな焼き加減！

食後坂本さんが食器洗いを代わってくれて寺内さんと私も釣りを楽しみました。夜になると夜光虫が綺麗で、水を撒くと花火のように見事に輝きました。Day5は一番充実してたくさん遊べた1日だったと思います。今夜は少し蒸し暑かったので佐藤さんと外で寝たのですが、明け方雨に見舞われキャビンに逃げ込みました。

### 8/16 Day6 ⇒Silva Bay⇒New Castle 16M【佐藤、山崎、坂本、庄野】

今日は Gabriola Pass を抜けるためスラックタイムに合わせて 8:05 に出発しました。空はまだ曇っています



Silva Bay へのアプローチを打ち合わせ



ポートランドアイランドで隣にいた RAVEN 号に再会

した。流木を避けながら Gabriola Pass を目指します。Pass を抜けると小島の間を抜けながら Silva Bay にアプローチするため、ナビの私は佐藤さんに針路を指示します。途中見覚えのあるヨットとすれ違いました、2 日目の泊地で隣に係留していた RAVEN 号です。

Silva Bay はマリーナの棧橋に着けるのでまた 66A で呼んでみます。応答がなかったのでそのまま一番留めやすいところに強行ドッキング、マリーナのおじさんが出てきました。VHF は聞いていてくれたそうです。お昼に大型船が来るけど短時間なら良いよということなので、そのまま舳取りを取り予定より 30 分早く 9:00 にドッキング完了。空が晴れてきました、今朝雨で湿った寝袋をデッキに出して乾かしました。古い Ship Yard を見物、老夫婦たちのカヤックレッスンを眺めながらコーヒブレイク。この先ジョージア海峡に出たらセーリングをしようということで予定を切り上げて 10:45 に出発しました。

これまで広い海原を走っていなかったの、ナビとしてもジョージア海峡に出たらパッセージプランは棚上げにして思いっきり沖まで出て、波に揺られながらセーリングをする計画を練っていました。11 時過ぎにジョージア海峡に出ると北西からの風、まずは北に向けて寺内さんが沖出し。庄野さんが的確にセールトリムの指示を出します。ナビの私は Fix を出しコースを確認しながら Oasis 号はセーリングを続けます。



広い海原に出て波に揺られながらの快適なセーリング、このまま海峡を渡ってしまいたい！

12:00 の Fix と 12:33 の Fix を比べると後戻りしているような？庄野さんが記録してくれた GPS の航跡と後日照らしてみるとその通りポートタックで北上していた時に東に偏っていたので Fix は正しかったようです。12:45 一旦セーリングを中止するも、13:40 セーリングを再開しました。この時点で予定より遅れが出ていたのですが、もう泊地となる New Castle 島が見えてきており、このあとは行けるところまでセーリングで行きたいところです。今日の泊地は島の南側ですが、遠回りして島の北側を回った方が登りが続いてセーリングを長く楽しめそうだということでルートを変更。ここで有難いことに坂本さんが途中でナビの私にヘルムを譲ってくれました。美味しいところを坂本さん、ありがとうございました。



Sunshine !



ブラボー！な私

このあと Nanaimo の水上飛行機の滑走エリアに近づくぎりぎりまでセーリングを続けました。だいぶ寄り道をしながら遊んでしまい、泊地到着は予定より 1 時間 20 分遅れ、15:30 になってしまいました。New Castle ではムアリングです、30 フィート用と 40 フィート用のムアリングブイがあるのですが、40 フィート用は数が少なく、探し回りました。ムアリングを完了し、トレーニングは修了となりました。

岡田先生からログブックを持ってくるようにとの指示があり、みんな提出します。先生がキャビンでログブ

ックに記入を始めました。我々はコックピットで先生の作業が終わるのを待ちます。先生が作業を終えると、ひとりひとり修了証明のエンボスが押されたログブックを受け取ります。結果はコスタルナビゲーション全員取得、庄野さんはコスタルスキッパーも同時取得を果たされました。みんなほっとしたところで島に上陸したり釣りを始めたり。岡田先生はお得意の焼きリンゴをオーブンで焼き始めました。



ご褒美もらったみたいでうれしい！



コスタルスキッパーも取得おめでとうございます！



やっぱカレーだね！

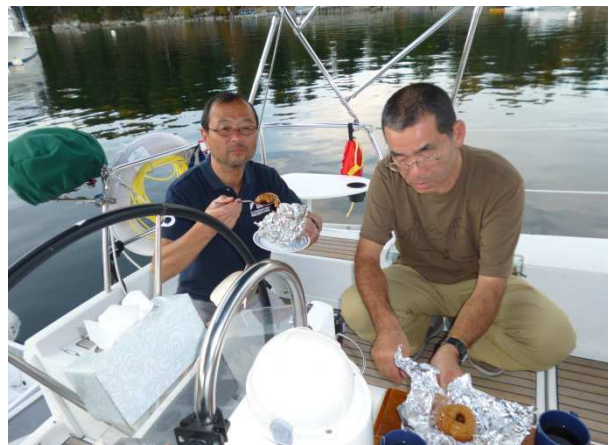


毎度、集金で一ず、1泊12ドルです！

船で最後の夕食は坂本シェフ自慢のポークカレーでした。今回は食事当番のレベルも高かったと、岡田先生からお褒めの言葉をいただき、全員コスタルシェフも取得しました。食事を終えて寛いでいると外で誰かが呼んでいます、ムアリングブイの集金でした。このあとコスタルコースに参加しないと食べられないと言われていた岡田先生の焼きリンゴをいただきました。6日間疲れ切った体に焼きリンゴの甘みがしみ渡りました。空が晴れていたおかげか、夜になると天の川もわかるほど星が良く見えました。



焼きリンゴ出来たよ！



いったっきま〜す！



あーまだ帰りたくな〜い！



もうすぐ夕焼け

### 8/17 Day7 ⇒Nanaimo Yacht Charters 1M【庄野、寺内、山崎、佐藤】

今日は船を返しに行くだけです。6時に起床、食材はほぼ在庫を消費しており、朝食は昨夜のカレーライスを含め直して済ませました。8時出発を目標にパッキングを進め、日本人の誇りにかけて船内を掃除します。庄野さんはオープンの中まで綺麗にしてくれました。そう言えば坂本さんは水の使えるところではいつも洗艇をしてくれていました。男は家の掃除は苦手でも船や車の掃除にはマメです。私も床拭きをしました。ゴミ袋にゴミを集め、余った食材や使ってない物資はGalleyの上に置いておけば良いとのこと。リネンカバーは外してまとめておきます。



給油はセルフ、軽油を海にたらしさないように



79.352 リットル、少数3桁はやけに細かい

出発すると泊地から十分離れたところで90Lのホールディングタンクを空にします。これを忘れると後で200ドル請求されます。マリーナの隣にある給油所に向かい137Lの燃料タンクを満タンにします。給油所にマリーナのスタッフが来てくれて、マリーナへの入港とドッキングを代わってくれました。荷物を積み下ろし、航行中発見した不具合等を所定の用紙に記入してスタッフに報告して完了です。今回はテンドー用のエンジンのプロパンポンベの接続不良と、マリンヘッドの排水の調子が良くないことを報告しました。来た時と同じようにお姉さんが荷物を運んでくれて、フェリーでリムジンが待機しているHorseshoe Bayへ向かいました。



Oasis号、また逢う日まで！



来た時とは違う車体だ！



17年ぶりに再会した Century号！



メチャ安かったけど頼んでもない北京ダックを請求されてビックリ！

ホテルに戻ってシャワーを浴び、夕食までは自由行動。庄野さんはマリンショップへ、私は佐藤さんと寺内さんを誘って、地下鉄でウォーターフロントへ向かいました。大棧橋には大きな客船が2隻停泊していました。ホーランドアメリカのオステルダムとセレブリティのセンチュリーでした。実はセンチュリーは新婚旅行のカリブ海クルーズで乗った船で、17年ぶりの再会でした。夕食は市内でフードコートのような中華料理、餃子、酢豚、チンジャオロース、焼きそばと、馴染みの料理で済ませました。安くて美味かったです。

## 8/18 オプションツアー

昨日の市内観光中に水上飛行機での遊覧飛行を発見、10分間のフライトで82ドルとのこと。高所恐怖症の寺内さんは少し躊躇していましたが、庄野さんが大乗り気、3人以上集まれば出発してくれるとのこと、朝一番8時発に4人で申込んでおきました。キャプテンを含めて8人しか乗れない小型の水上飛行機で操縦席かぶりつきのフライトを楽しめました。



定期便より小型の水上飛行機





超アナログな操縦席



グランビルアイランド上空



目視で着陸態勢



陽気なキャプテン

## 付録

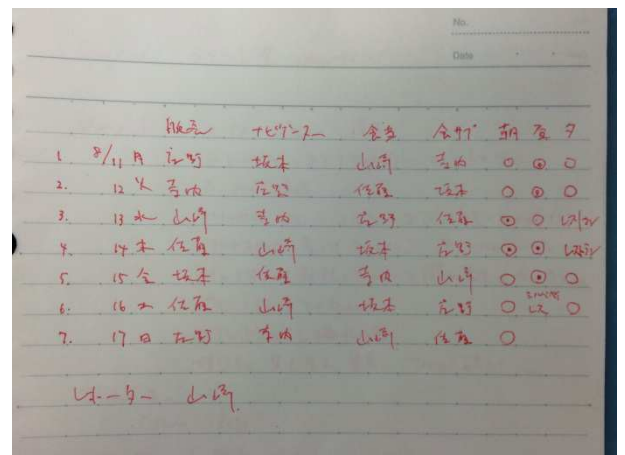
### 【マリン VHF 講習会】

4月に横浜ベイサイドマリーナで実施されたカナダのマリン VHF 講習会に佐藤さんと私で参加して、ライセンスを取得しておきました。口頭試問は何を聞かれるかハラハラしましたが、船の名前のスペルを、「オスカー、アルファ、シエラ、インディア、シエラ」といった感じで答えるものでした。Phonetic Alphabet はあらかじめ覚えておいた方が安心です。

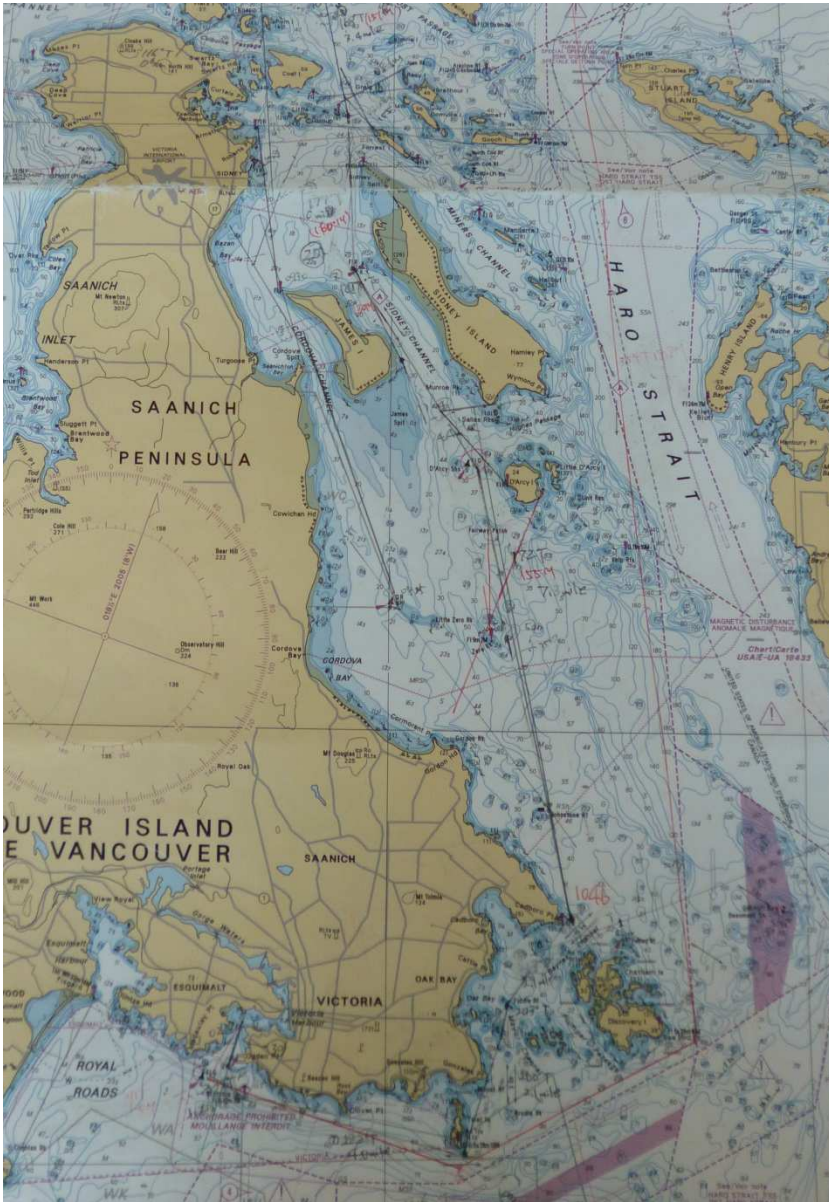
### 【コスタルナビゲーション理論講習】

7月の土日4日間に渡っての事前準備講習がありました。各自チャートにコースを記入し、針路と距離をノートに書き出し所要時間を算出、コースの途中に狭い海峡があるときはスラックタイムを確認して出発時間を逆算します。係留予定地点の潮汐を確認し最低所要水深を算出します。コースの取り方で各自少しづつ違いがあるのですが、答え合わせをすると所要時間はほぼ一致して OK です。

厄介なのは磁北と真北の差、偏差の換算です。ガルフアイランドでは偏差は  $17^{\circ}$  E、真北  $360T$  に向かいたいときにヘルムに指示する針路は  $343M$  となります。東京湾では偏差は  $7^{\circ}$  W 程度なのであまり気になりませんが、 $17^{\circ}$  違うと結



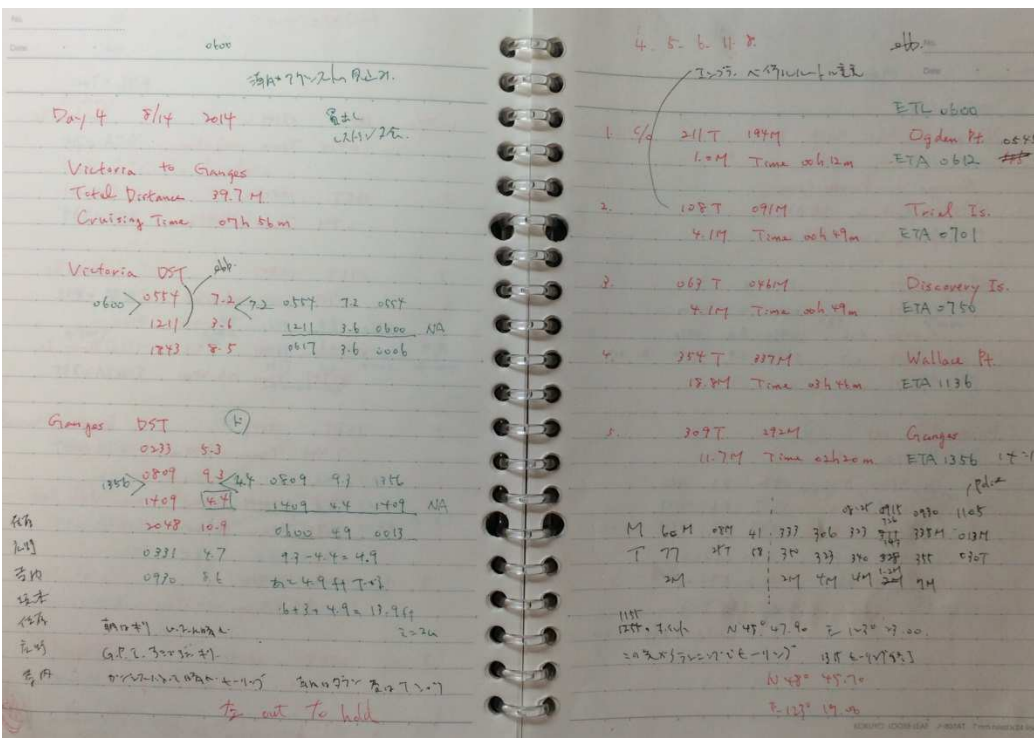
当番表、手書きです！



構感的にも違います。実際にはさらに船ごとのコンパスには方位によって自差が生じますが、これは船に乗ってみたいとわからないので、パッセージプランではマグネティック方位の確認までです。他にも潮流でどれくらい流されるから実際に進める針路はこれくらいといったベクトルの練習問題や、カナダの潮汐表の見方、最低所要水深の算出練習と、日ごろ使っていない脳力をフルに発揮させられるトレーニングでクタクタになりました。最後に艇長、ナビ、食事当番、食事当番サブの順番を決めました。

実際にクルーズで使ったチャート

Day4のパッセージプランではVictoriaを出発して大回りでHaro Straitを北上する赤いライン。実施は岸辺に沿った黒いラインのルートで北上。



実際の Day4 のノート

予定変更で右下に黒で針路と距離をメモ。

【事前準備食事メニュー

ープラン】

7/29の18時半、渋谷の居酒屋の個室にメンバーが集結、決起会を兼ねて食事メニューの検討会を行いました。この日はロンドンから一時帰国していたワイフも料理アドバイザーとして参加、現地で食材が確保できるか、航行中に火を使えるか、といった観点からメニューを再考しました。栄養バランスを考えフルーツを十分積むことにしました。

メニューが決まったところで、各自が日本から持っていくもの、現地で手配する食材等の詳細なリストを作成することになり、佐藤さんが引き受けてくれました。各自後日必要な食材を佐藤さんに申告、こうして出発前と途中での補充の2回分の詳細な買い物リストが出来上がりました。ちなみにこの日お店を出たのは23時過ぎでした。

クルーズ中の食材の消費に合わせて Ganges での補充前にも食材の在庫を綿密にチェックし、余分に買いすぎないように調整しました。

【ライフジャケットのハプニング】

膨張式ライフジャケットはたとえば JAL のサイトによれば各自1着、予備シリンダーは2点まで、機内持ち込みでも預入でも OK となっています。JAL 便を使った佐藤さんと私はチェックインの際に申告し、特別検査所に案内され検査を受けて預入したのですが、バンクーバー空港でライフジャケットの入ったバッグだけ2人とも出てくるまでに2時間もかかりました。原因はわかりませんが、事前に利用するエアラインに確認した方が良いと思います。

【その他準備について】

船内で邪魔にならないよう荷物はソフトバッグに入れて行きます。ソフトバッグは中で小物の行方が分からなくなってしまうので、私は船内で小物を入れておくための大きめの箱を持って行き、便利でした。今回積み込まなかったのですが、お酢、お酒があると応用が利きそうです。小さくてもカメラの三脚があると集合写真の撮影に便利です。船のトイレは紙を使いすぎるとパイプが詰まります、トラベルウオシュレットは役に立ちます。今回は例年になく暖かく私はほとんど短パンで過ごせてしまいました。昨年は寒かったとも聞いています。暑さ寒さ両方に対応できるよう工夫が必要です。今回シャワーが使えた泊地はビクトリア、ガンジス、ニューキャ

	8/10 Nanaimoで購入	8/13Victoriaで購入	日本から持っていく	
飲み物	ミネラルウォーター	1L×6人×6日=36L→40L	不足分	
	ビール	3本×6人×4日=60本→25	3本×6人×3日=45本→2箱	緑茶ティーパック 佐藤
	赤ワイン	5本		
	白ワイン	5本		
	ソフトドリンク(ジュース等)	適量	不足分	
	コーヒー(インスタント)	適量	不足分	
	紅茶(ティーパック)	適量	不足分	
牛乳	適量	不足分		
備品	トイレペーパー		割りばし(竹)20個位	佐藤
	ゴミ袋		軍手3双	庄野
	フィッシュペーパー		炊取り網	坂本
	食器洗剤		備品	
	洗濯洗剤		備品	
	ライターorマッチ	船の備品を確認してから購入する	備品	
	ラップ		備品	
	ジップロック		備品	
	キッチンペーパー		備品	
	アルミホイル		備品	
調理器				
ザル				
釣具				
調味料	オリーブオイル		だし(煮)	山崎
	塩		練りワサビ(チューブ)	
	胡椒		練りショウガ(チューブ)	
	マヨネーズ		インスタントスープ	寺内
	砂糖		ステーキソース	
	ケチャップ		ガーリックペースト	
	オリーブオイル		アンチョビソース	
	醤油(船に用意されている)	不足分	鶏つば	庄野
	味噌(船に用意されている)	不足分	ソーメン	坂本
	マスタード		カレールー	佐藤
		いなりずし材料		
主食等	食パン	4斤	8斤	
	フランスパン(バゲット)	6本	3本	
	米(船に用意されている)	8合	6合	
	ホットドッグ用パン		12個	
	バナナ			
	リンゴ	6個		寺内さんが少し持っていく
食材	ハム		18枚	惣菜
	チーズ		1ブロック	乾燥味噌汁
	卵	18個	16個	塩昆布
	ツナ缶	3缶	4缶	いなりずし材料
	ソーセージ		12本	
	ピクルス		1本	
	レタス	0.5個+3枚→1個	2個+6枚ですが2個で間に合わせる	
	きゅうり	大2個	7個	
	きゅうり	3本	6本	
	じゃがいも	大3個	9個	
	人参		4本	
	アスパラ		3本	
	ほうろく		3個	
	ステーキ用牛肉		6枚	
	牛蒡		適量	
	分葱	適量		
	キャベツ	半玉		
	たまねぎ	2本		
	ピーマン	21枚	12枚	
	エビ	中30		
トマト	9個	9個		
オイルサーディン	2缶			
オリーブ	6キレ			
アサリ	450g			
フェリートマト	18個			
ブロッコリー	1個	3房		
オリーブ	1パック			
コン	1缶			
ピーマン	1個			
バナナ	2			
豚肉	中30			
豚肉		400g		
カレー	1個			

実際に使った買出しのリスト、赤字で消込の跡

コース/泊地	主要	おかず	食材・調味料	備考
DAY 1 8/11(月) Nanaimo 0915 山崎・寺内	朝食	トースト	ベーコン、タマゴ	トーストは7人分はOK
Wallece Is 1400	夕食	ハケツサンド	パン、オイルサーディン、レタス、トマト、タマゴ	
Wallece Is 0900	朝食	アガハツア生ハム、ソーセージ(つまみ)	ソーメン、白身魚切り身6切れ、あさり、トマト、ブロッコリー、キウイ	
Portland Is 1345	夕食	ご飯	目玉焼き、佃煮	ごはん4合を2回炊く(量の方も) 量は前は前夜でも良い
Portland Is 0700	朝食	いなりずし	漬物	
Victoria 1230	夕食	ブルスケツ	エビチリ、ジャーマンポテト	
Victoria 0600	朝食	ツナサンド	オレシジ、コーヒー	
Victoria 1230	夕食	外食		
Ganges H4 1345	夕食	外食		
Ganges H4 0900	朝食	サンドイッチ	目玉焼き、ソーセージ	ハム、チーズ、卵、ツナ缶、ソーセージ、レタス、たまねぎ、キャベツ、マヨネーズ
寺内・山崎 1345	夕食	朝食時に作り置き		
PiratesCo 0800	朝食	ガーリック	ステーキ、バーニャカウダ	牛肉、じゃがいも、ブロッコリー、にんじん、アスパラ、パプリカ
坂本・庄野 1445	夕食	カレー	サラダ	カレー、タマゴ、牛乳、砂糖、ピーマン
Newcastle 1445	夕食	カレー	サラダ	米、豚肉、じゃがいも、たまねぎ、にんじん、カレールー
Newcastle 0800	朝食	ご飯	目玉焼き、カレーの残り	サラダ用野菜
山崎・佐藤 0800	朝食	外食	お味噌汁	玉子、米、みそ、余った野菜他
Nanaimo 0900	夕食	外食	パン	

変更後の食事メニュー

ッスルの3か所、いずれも清潔でしたが、故障していたブースもあったようです。1カナダドルコインでしか使えません。クルーズ中Wi-Fiはビクトリアとガンジスのマリーナでつながりました。

カナダの8月はベストシーズンなのでそれなりに航空券は割高です。早くとらないと直行便が取れなくなります。

#### 【おわりに】

1週間のクルーズは最高に楽しかったです。初めはいつ岡田先生からお叱りの声を浴びるか少し緊張していましたが、船内で寝食を一緒にしているうちに緊張も解け、とても楽しく過ごすことが出来ました。カナダのレストランは美味くないとの下馬評でしたが、シーフードは格別に美味しかったです。資格取得という目的達成はもちろんですが、メンバーにも天候にも恵まれ、生涯忘れえない船旅を楽しむことが出来、本当に参加して良かったと思っています。岡田先生、佐藤さん、寺内さん、庄野さん、坂本さん、本当にありがとうございました。これからもご指導よろしく申し上げます。